

彩の国プラチナ混声合唱団

第14回 国際シニア合唱祭

ゴールデンウェーブin横浜

神奈川県知事賞受賞

埼玉県合唱連盟事務局・シニア委員 森川 真弓



彩の国プラチナ混声合唱団は4月14～16日、横浜みなとみらいホールで行われた第14回国際シニア合唱祭 ゴールデンウェーブin横浜に100名のメンバーで出演し、神奈川県知事賞を受賞しました。

この催しは北海道から沖縄までの国内の合唱団に加え、韓国・台湾の5団体、計113団体、総勢3,200人が三日間にわたって参加するシニアの合唱祭です。

◆演奏曲：谷川俊太郎詩、木下牧子曲

〔混声合唱とピアノのための『いのちの木を植える』より

「梨の木」「木を植える」 指揮小野瀬照夫、ピアノ持田みどり

運営主体は シニア委員会

初めて横浜みなとみらいホールのステージに立ってから8年。埼玉県合唱連盟において独立採算を基本として始まった「シニア委員会」が「有志合唱団を編成して国際シニア合唱祭に出演

しよう！」と小島嘉子、蓮沼喜文、持田みどり、鈴木弘美、南めぐみなど理事の諸先生方と一から立ち上げた企画です。

毎年この企画のために新たなメンバーを募集します。果たしてどれだけ集まるか不安が募りますが、幸いにも毎回100人を超えるメンバーが集まってくれます。2016年発足以来、コロナ禍で中止の年もありましたが毎年続いています。毎回参加してくれる方、時々の方、新しい方、いろいろですが、恒例事業となった現在では、同じ合唱団の仲間同士のように気心の知れた顔触れで、いつも楽しみに参加しています。

2019～20年はコロナ禍で中止の2年間を過ごしましたが、その後伊那市で行われた信州アルプスシニア合唱祭ゴールデンウェーブin伊那は特に心に残っています。3年越しとなった谷川俊太郎詩、信長貴富曲＜混声合唱曲集『かなしみ

はあたらしい』より「未来へ」の演奏では、感動の涙で歌えなくなりました。コロナ禍でたくさんの合唱団が解散したとの知らせをききました。歌いたいのに歌う場所がなくなってしまった、そんな方々にとってプラチナ混声のような形の合唱団は必要だと強く思いました。

環境問題と植樹活動をめぐる詩「木を植える」

5月25日埼玉県秩父市で全国植樹祭※が開かれます。まさに『いのちの木を植える』はぴったりの素敵な曲となりました。指揮者小野瀬先生発案の振り付けも、最初はびっくりしましたが、練習を重ねるにつれて振り付けがつかうことで曲に対する愛情が湧いてきました

※天皇・皇后両陛下が臨席される“天皇四大行幸啓”のひとつ

今年は初参加の方も多くいたのですが、小野瀬先生の指導で毎回レベルアップしていく様子を感じて鳥肌がたちました。理事の指導者の先生方も歌い手となり一緒に声を合わせて

いくプラチナならではの時間は、とても贅沢でワクワクするひとときです。ただ歌えればいい、というものではなく、より良い演奏に向かう指導の先生方の気持ちが伝わり、それに応えたい、歌うことが楽しい、



2024年のステージ

となりまた次も参加したい！と思わせてくれるのだろうな、と思います。決して結果を求めてはいないのですが、演奏する私たちも聴いてくださった講師の先生方も来場者の方も一つになる、心に響く音楽を奏でることが出来たことだけでいたった賞だったな、と感動の気持ちで受け止めました。終わってしまったことが寂しくてたまりません。本当に素敵な時間をありがとうございました！ また、一緒に歌いましょう♪

埼玉県合唱連盟が主催する「彩の国プラチナ混声合唱団」は横浜みなとみらいホールの国際シニア合唱祭の出演だけでなく、「彩の国シニアコーラスフェスタ」にも出演しています。まもなく、参加者を募集します。ぜひご参加ください。

彩の国プラチナ混声合唱団の活動は下記でご覧下さい

https://rkato.sakura.ne.jp/music/sainokuni-platina_mixed_chorus_top.html